

草野絵美 個展「Ornament Survival」開催
アートバーゼル香港 Zero10 で話題を呼んだ最新シリーズを日本初公開
5月16日（土）より神楽坂・√K Contemporary にて



√K Contemporary（ルート K コンテンポラリー | 東京・新宿）では、2026年5月16日（土）から6月20日（土）にかけて、アーティスト・草野絵美による個展「Ornament Survival」を開催いたします。

本展では、2026年3月に開催されたアートバーゼル香港 Zero10 にて発表し、大きな反響を呼んだ新シリーズ

《Ornament Survival》を日本初公開いたします。新作を加えさらに進化した同シリーズ、そして《Office Ladies》等の代表作を展示し、草野の創作の変遷をお楽しみいただく機会となります。

草野は、次世代の国際的なデジタルアートシーンにおける先駆者の一人として、独自の位置を築いてきたアーティストです。AIを用いた表現が広く普及する以前から、草野は自身の画像を学習させ、カスタマイズしたAIを用いて作品を創り、M+や金沢21世紀美術館をはじめとした国内外の美術館等で発表してきました。NFTがデジタル作品の新たな流通と受容のかたちとして注目を集め始めた時期から継続的に作品を発表し、近年はその枠組みにとどまらず、フィジカルとデジタルの境界を横断する表現へと実践を拡張しています。アートバーゼル香港2026のデジタルアートセクター、ZERO10では初めての立体作品を発表するなど、その豊かな創造性はとどまるどころを知りません。

今回日本初公開となる《Ornament Survival》。

情報に翻弄される現代人の自己および他者からの承認欲求—溢れ続ける欲望は、決して満たされることなく、情報資本主義社会において資源へと変換されていきます。感情は表層のみが切り取られデータ化され、やがてテクノロジーへと置き換えられていく。そのプロセスは、私たちの実存の輪郭さえ曖昧にしていきます。草野が親しんだ1980～90年代の日本カルチャーに対する憧憬すらも消費と再編の中で失いつつある現在、現実と虚構の境界はますます不確かなものとなっています。

本シリーズで草野は、内なる苦悩と欲望をこの時代を生きる女性達のロールモデルとしてのエネルギーへと転換し、幼少期の変身願望と重なり合いながら、新たな表現世界を構築するため「サバイブ=創造」しています。

本展にて、草野絵美の新たなステージを、ぜひ体感ください。

【Exhibition Information】

草野絵美「Ornament Survival」

会期 | 2026年5月16日(土) - 6月20日(土)

会場 | √K Contemporary (ルート K コンテンポラリー)

住所 | 東京都新宿区南町6

開廊時間 | 13:00-19:00

休廊日 | 日・月

主催 | √K Contemporary

協力 | Tsubasa Koshide、松井製作所、岸本智也、丹原健翔、木村絵理子

印刷 | FLATLABO

本展 web | https://root-k.jp/exhibitions/emi-kusano_ornamentsurvival/

※最新情報はギャラリーウェブサイトおよびSNSにてご確認ください。

■ 丹原健翔 (キュレーター) によるコメント

草野絵美の作品に繰り返し現れる、1980年代の日本のポップアイドル、魔法少女、看護師や受付といった様式化された女性像は、当時の視覚文化を構成するイメージにとどまらない。1990年代の日本で育った多くの少女にとって、それらは変身や可視性、主体性を思い描くための具体的なモデルであり、同時にこれらイメージは男性中心的なポストバブル期の社会で形成された女性性と切り離せず、外見や望ましさ、振る舞いに関する規範を伴っていた。『美少女戦士セーラームーン』に代表されるように、少女たちが変身する物語が広まるなかで、これらのイメージは「女の子も何者かになれる」という可能性を示しながらも、女性性がどのように見え、どう振る舞うべきかという既存の規範に強く結びついたままでもあった。

新作《Ornament Survival》において扱われるのは、この緊張関係である。草野自身、これらのイメージに惹かれて育った一方で、それらがジェンダー規範や男性的まなざしによって形づくられていたことを、いま振り返って認識していると語る。外側から距離をとって批評するのではなく、その内部にある愛着と違和感が重なる位置を出発点とする本作において、草野が立ち返るのは抽象的な類型ではなく、自己像の形成に深く関わってきた視覚環境その

ものである。それはまた、変身や女性性、主体性といったものが、具体的な生の経験として最初に出会われた場でもあった。

本作の中心には、草野自身の身体イメージを用いて複数の自己像を仮構する AI 生成画像のシリーズがある。そこで示されるのは確定したアイデンティティではなく、スタイリングや姿勢、文脈の変化を通じて、馴染み深い役割が少しずつ調整されていく一連の試みである。アイデンティティとイメージのあいだの緊張の内部へとあらためて入り直していくこのシリーズは、幼少期に草野が着せ替え人形に役割を与え、場面をつくりながら遊んだ経験に基づいている。そこではアイデンティティは固定されたものではなく、リハーサルの反復を通じて組み立てられていくものとして捉えられている。そこに立ち現れるのは、単なる「あったかもしれない別世界」の並行的な想像ではなく、文化的に学習されてきた役割の絶えざる再構成である。展覧会の中心に置かれる彫刻は、玩具のメイクアップ・コンパクトを拡大した形態をとり、魔法少女文化における変身アイテムを想起させることで、この幼少期の遊びの感覚を空間のなかに強く呼び戻している。

草野の手において生成 AI の使用は、既存のイメージとの関係のなかで自己が形成されていく長いプロセスを、別のカタチで持続させるものである。同時に、自身の顔と身体を学習させたモデルを用いることによって、自己は反復可能で、修正可能で、拡張可能な形式へと変換されていく。それは草野自身が語るように、システムのなかでひとつの「標準」に近づいていく運動でもある。ここで反復されているのはアイデンティティそのものだけではない。自己がデータへと変換されていく過程でもある。こうした形式が反復を通して持続していきあり方に向き合うことで、草野はより大きな問いを開いていく。イメージがかつてない速度と親密さで流通する現在において、それはいかにして自己を教え込み続けるのか。さらに、現代では、外見が交渉の場となり、それらの形式を演じること自体が一種の生存戦略に近づいている。そうしたなかで、可視的であり続け、判読可能であるために、アイデンティティはいかに絶えず調整されていくのか。

丹原健翔（たんばら けんしょう）

作家、キュレーター。92年東京生まれ。ハーバード大学美術史学科卒業。作家として活動する傍ら、美術展覧会の企画・キュレーションを行う。「OUT SCHOOL」主宰、「Yurakucho Art Urbanism」実行委員など。主な展覧会に「デバッグの情景」（22年、ANB Tokyo、東京）、「無人のアーク」（Study: 大阪関西国際芸術祭 2023、大阪）、「Back to Thread」（FUJI TEXTILE WEEK 2023、山梨）など。

■ Events

本展では、草野の創作背景や思想を掘り下げ、現在大きな注目を集める AI とアートといったテーマを取り上げたトークイベントの開催を予定しています。

6月13日（土）16時からは木村絵理子氏（キュレーター・弘前レンガ倉庫美術館館長）と草野絵美による対談イベントを開催します。

トークイベント | 木村絵理子×草野絵美

日時：6月13日（土）16時～

参加無料・予約制

参加申込▶ info@root-k.jp

その他にもイベント開催を予定しております。各イベント詳細が決まり次第随時 web 及び SNS にてお知らせいたします。

■ **Artist | 草野絵美 / Emi Kusano (1990 -)**



マルチディシプリナリー・アーティストであり、世界の生成 AI アートシーンを牽引する第一人者の一人。10代で原宿のストリートファッションを記録する写真家としてキャリアを始動し、その初期作品はヴィクトリア・アンド・アルバート博物館 (V&A) に展示された。ファッションと写真におけるこれらの原体験は、マスメディアがいかに個人の、そして集団のアイデンティティを形成するかという、彼女の視座の礎となっている。

以来、彼女の実践は先端技術を統合する形で進化を遂げてきた。そこでは AI を単なるツールとしてではなく、共創的なパートナーとして位置づけている。このプロセスを通じ、草野はデジタル時代におけるノスタルジア、ポップカルチャー、そして集会的記憶を批評的に探求している。

その作品は、M+ (香港)、サーチ・ギャラリー (ロンドン)、グラン・パレ・イマージュ (パリ)、フランシスコ・カロリヌム美術館 (リンツ)、金沢 21 世紀美術館など、世界 20 カ国以上の主要機関で展示されている。また、フ

リーズ・ソウルや Untitled Art Miami といった主要な国際アートフェアにも参加。特筆すべきは、写真的な感性と AI 生成を融合させた代表作シリーズ『Office Ladies』が「Paris Photo」で特集され、世界的な注目を集めたことである。

2023 年の Gucci とクリスティーズによるオークションや、2024 年のクリスティーズと UNHCR によるチャリティ・オークションへの出品がその象徴である。視覚芸術の枠を超え、音楽ユニット「Satellite Young」の主宰・リードシンガーとしても活動。80 年代 J-POP を現代的な SF のレンズを通して再解釈し、SXSW などの国際的なイベントに出演している。

2025 年には、世界経済フォーラム (ダボス会議) の「ヤング・グローバル・リーダー」に選出された。

直近では、サイバーパンク・アニメの金字塔『GHOST IN THE SHELL / 攻殻機動隊』とのコラボレーションによるニューヨークでの初個展『Ego in the Shell』を開催し、高い批評的評価を獲得した。アート・バーゼル香港 2026 のデジタルアートセクション、Zero10 に日本人として唯一出展し大きな反響を呼んだ。

IG : @emiksn | X : @emikusano

■ 出展作品



(上)

《Magical Compact 02: Aqua Halo》(2026) Plastic, AI-Photography printed on acrylic
(下 左から)

《Blue Core Assembly》(2026) Print on acrylic board, 145.6×103cm

《Model Audience》(2026) Print on acrylic board, 119×84cm

《Transit Bouquet》(2026) Print on acrylic board, 84 × 59 cm

《Nursing the Machine》(2026) Print on acrylic board, AP,119×84cm



■ √K Contemporary について

2020年、東京・神楽坂にオープンしたアートギャラリーです。ジャンルや世代、国境に捉われることなく、様々な芸術作品を提示し、後世に残す活動をしています。古代から現代に至る歴史の中で生み出されてきた美術作品を通して、先人たちの芸術思考を学び、独自の審美眼でキュレーションを行います。戦前から現代、コンテンポラリーを中心に、選りすぐりのアーティストたちの個展や企画展を開催しています。

また、宇宙空間に造設されたギャラリーをイメージした300平米を超える展示スペースは、作品に新しい価値観を生み出す革新的な場面を作ります。それを鑑賞者と共有し、深く記憶されていくことで、私たちの活動の記録を未来につなぎ、新たなアートシーンを創出していくことが、√K Contemporary のミッションだと考えています。

Web | <https://root-k.jp> | FB : @rootcontemporary | X / IG : @rk_contemporary

【本プレスリリースに関するお問合せ先】

√K Contemporary (運営 SEI-RIN Co.,Ltd.) 担当：渡邊

東京都新宿区南町6

Tel : 03-6280-8808 / Email : pr@sei-rin.com / URL <https://root-k.jp>